

EXPO2025 大阪・関西万博スイス館

“University of Bern Day at the Swiss Pavilion”

招待講演及びパネルディスカッション

芝池 諭人 (鹿児島大学)

2025 年 4 月 25 日に、EXPO2025 大阪・関西万博のスイス館にて、ベルン大学および在大阪スイス領事館の主催で行われた、“University of Bern Day at the Swiss Pavilion” というイベントに招待いただき、講演とパネルディスカッションを行いました。講演者と聴講者は全て招待された方たちでした。

イベントでは、まず在大阪スイス領事館の Fabbri 翼氏、ベルン大学学長の Virginia Richter 教授からウェルカムトークがあり、その後私が “Unveiling the birth of planets” と題した講演を行いました。惑星がいかに誕生するのか、これまでの研究の流れから現在の理解について、最新の数値計算や ALMA による観測なども紹介しつつ、解説しました。参加者は皆、真剣な表情で私の講演を聴いてくださり、分野外の皆様にも惑星形成について興味を持っていただけたかな、と思っております。また、私は博士取得後に 4 年間ベルン大学でポスドクとして研究生生活を送っていたのですが、今まで続くベルンの研究者たちとの研究や交流と、その大きさについて話しました。

その後、JAXA/ISAS 所長の藤本正樹教授、ベルン大学 Audrey Vorburger 助教、Insel Group 及びベルン大学の Matthias Wilhelm 教授、京都大学の谷口忠大教授、そしてオンラインで ESA の Marco Sieber 宇宙飛行士から、それぞれの専門についてのトークがありました。内容は、宇宙探査はもちろん、医療や AI といった内容に及びました。さらに最後には、上記 5 名の研究者と宇宙飛行士、そしてなぜか急遽私も加わり、“Exploring Space, Advancing Human Health: How Space Research, Medicine and AI Shape Our Future” と題したパネルディスカッションを行いました。いずれも非常に興味深く、また今後の各研究分野の融合に期待を持つことができました。また、その後のネットワーキング会では、さまざまな分野の研究者や企業の方と（スイスのワインに舌鼓を打ちながら）お話しする機会があり、大変勉強になりました。

スイスのベルン大学は、天文学や宇宙探査にも力を入れています。その歴史は古く、アポロ 11 号による人類初の月面着陸時には、太陽から “吹く” 荷電粒子「太陽風」を観測する装置をベルン大学の研究者たちが作成しました。スイス館では、ESA が主導する JUICE 及び Comet Interceptor 計画で搭載・搭載予定の、ベルン大学により作成された質量分析器の展示がなされ、私も見学することができました。ESA 主導の Rosetta 探査機にもベルン大学の質量分析器は搭載され、チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星の組成を分析しました。パビリオンでは、その結果を元に再現した彗星の「匂い」を嗅ぐことができました。なんとも言えない、ちょっと腐ったような匂いで、良い匂いではありませんでしたが、とても貴重な体験となりました。

今回の私の招待講演は、ベルン大学との縁により、実現しました。ベルン大学で研究していた際には、ベルン在住の日本語話者に向けた一般講演会を企画し、昨年末には、日本とスイスの国交樹立 160 周年を記念したベルン大学および在スイス日本大使館主催の講演会も行いました。ベルン大学にはこのような貴重な機会を幾度もいただいております、今後もこの縁を大事にしたいと考えています。



大阪・関西万博スイス館内で講演中の筆者